

名古屋市図書館第1ブロック施設整備方針

令和3年11月
(令和7年2月改正)
名古屋市教育委員会

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	第1ブロックの現状と課題・・・・・・・・・・	1
	（1）利用状況	
	（2）主な課題	
3	「なごやアクティブ・ライブラリー構想」で目指す姿 ～市民の生活に寄り添い、役立つ図書館を目指して～	5
	（1）目指す図書館像	
	（2）地域サービス網の形成と新たなサービス	
	（3）これからの図書館に求められるもの	
4	各サービスの方針と特徴・・・・・・・・・・	10
	（1）アクティブライブラリー	
	（2）コミュニティライブラリー	
	（3）スマートライブラリー	
	（4）貸出・返却ポイント	
	（5）協働運営ポイント	
	（6）自動車図書館	
5	地域サービス館の整備方針・・・・・・・・	16

1 はじめに

名古屋市は、平成 29 年 12 月に「なごやアクティブ・ライブラリー構想」（以下、構想とする）を策定しました。この構想は、ハード面とソフト面の機能をブロックごとに組み合わせ、ネットワークとして展開することで、より多くの市民にサービスを届けられるよう、地域サービス網の再構築に取り組むものです。社会情勢や市民ニーズに対応した施設整備や効率的・効果的な運営方法により、現在、図書館を利用している方に対しても、利用していない方に対しても、これまで以上のサービス提供を目指します。

この目的を実現するため、構想で優先するとした第 1 ブロック（千種区、東区、守山区、名東区）の施設整備に係る方針を策定しました。

2 第 1 ブロックの現状と課題

第 1 ブロックには、建設年次の古い図書館が集中しています。そのため、まずは第 1 ブロックの施設整備を優先して行うこととしています。

第 1 ブロックの図書館における現状と課題は以下の通りです。

（1）利用状況

第 1 ブロック内の各図書館の年間入館者数、貸出点数の推移は以下のとおりです。各館において、入館者を増やすための取り組みを積極的に実施し、貸出数につなげられるよう取り組んでおりますが、入館者数、貸出点数ともに、ほとんどの年度において減少しています。

①入館者数の推移

（単位：人）

区 分	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	元年度※
千種図書館	288,249	280,350	280,306	274,277	249,586
東図書館	438,124	426,913	420,578	425,443	395,070
守山図書館	245,983	227,493	222,030	217,094	194,553
志段味図書館	204,453	199,774	194,037	195,481	179,381
名東図書館	350,474	329,962	318,895	330,732	297,065

②貸出点数の推移

（単位：点）

区 分	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	元年度※
千種図書館	514,214	508,580	525,037	525,591	503,343
東図書館	707,053	679,967	669,611	661,176	635,620
守山図書館	475,280	458,241	447,041	434,648	394,769
志段味図書館	442,504	430,140	417,267	409,506	371,983
名東図書館	753,901	742,271	739,899	730,462	664,312

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和 2 年 3 月 2 日～3 月 31 日臨時休館

(参考) 各館における利用者増に向けた取り組み事例

区 分	事 例
千種図書館	●東山動植物園との協同企画 近隣の東山動植物園と連携した企画を行っています。動植物園と連携して、観察と合わせた絵本の読み聞かせ（右写真）や、図書館における魅力的な動植物の紹介展示等により、来館者の興味・関心を高めています。 
東図書館	●高校・大学との連携事業 高校生がおすすめの本の魅力を紹介する「東区高校生ビブリオバトル」を区役所、市民ギャラリー矢田と共催したり、近隣の名城大学と連携し、小学生を対象とした英語絵本の読み聞かせ（右写真）を実施したりしています。 
守山図書館	●郷土の魅力を知る取り組み 歴史資料をデジタル化して活用する「デジタル郷土史講座」や、子どもたちが自然とのふれあいを通じ、生活と自然環境の繋がりを実感できる「矢田川自然体験学習（右写真）」など、郷土の魅力を発見する機会を作っています。 
志段味図書館 (指定管理者)	●地域に密着したサービス 借りた本を返却できる返却ポストを、志段味支所、イオン守山店に設置しているほか、館外出張読み聞かせや、地域住民との協働による「図書館まつり」（右写真）の開催など、地域に親しまれる図書館を目指しています。 
名東図書館	●区役所との連携事業 「名東区まちづくり紹介コーナー」の設置や、小学生の視点で、地域のまちづくりを考えてもらう「めいとう☆キッズまちづくり探検隊」（右写真）など名東区役所と連携し、市民のまちづくり活動への参画支援を行っています。 

(2) 主な課題

① 施設の老朽化等

第1ブロックの図書館は、築40年以上の図書館が3館あります。すべて2階建の施設ですが、エレベーターが未設置であり、車椅子の利用者が来館された場合は、職員が対応しています。また、千種図書館には学習室がないため、閲覧室に社会人用の学習スペースを設けたり、集会室の利用がない場合に、学習室として市民に開放したりする等の工夫を行っています。

老朽化した図書館において、できる限りの対応をしているところですが、利用者の方にはご不便をおかけする場合があります。

区 分	建築年度	エレベーター	学習室
千種図書館	昭和43年度	なし	なし
東図書館	平成13年度	あり	75席
守山図書館	昭和47年度	なし	88席
志段味図書館	平成16年度	あり	24席
名東図書館	昭和51年度	なし	50席

今後は、適切な時期に改修等を行い、ユニバーサルデザインの考え方に基づいて設計された快適で利用しやすい施設とする必要があります。また、その際には、民間活力を活用し、例えば、飲食をしながらの読書、おしゃべり、休憩など気軽に利用できるカフェ等の併設や、NPO法人・市民活動団体・高校や大学との連携による催しの充実など、より魅力ある施設とする必要があります。

② 施設の立地

東図書館以外は、地下鉄駅から離れた場所に図書館単独で立地しています。

名古屋市の図書館（分館）のうち、利用者数が1番多い図書館は、地下鉄駅に直結し、民間施設等に隣接する徳重図書館であり、次に多い図書館は同じような立地条件である東図書館です。人が集まり、便利な場所にある図書館は利用者が多い傾向にあり、利便性の向上が課題となっています。

区 分	最寄駅、バス停	駅、バス停からの距離
千種図書館	地下鉄東山線 東山公園	東へ500m
	地下鉄東山線 星ヶ丘	西へ500m
東図書館	地下鉄名城線 ナゴヤドーム前矢田	1番出口すぐ
守山図書館	市バス 守山図書館	下車すぐ
	ゆとりーとライン 守山	西へ160m
志段味図書館	ゆとりーとライン 上島（東）	下車すぐ
名東図書館	市バス 名東図書館	下車すぐ
	市バス 文教台二丁目	下車すぐ

今後は、利用が多く見込める場所に施設を整備したり、図書館に限らず、身近な場所で図書館の本の貸出・返却を可能にしたりすることで、より多くの市民が図書館サービスを利用できるようにする必要があります。

③ 市民ニーズの多様化

平成 30 年度に第 1 ブロック内の市民約 3,000 人を対象にアンケート調査を実施し、これからどんな図書館に行きたいと思うかについて尋ねた結果、ゆったりと本を読むことをはじめ、様々なニーズがあることが分かりました。

(問) どんな図書館に行きたいと思いますか	
・ ゆったりと本を読める ・ リラックス、リフレッシュができる ・ 学習や研究に集中することができる	・ PC を持ち込める、無料 PC がある ・ いろいろなイベントの実施がある ・ 飲食や、おしゃべりができる

従来の図書館は、静かに読書できる場所というイメージのもと、個人単位での利用を想定していたことから、これらの様々なニーズに施設や設備が対応しておらず、市民の希望に応えることが十分にできていません。ゆったりと本が読める空間、飲食やおしゃべりができる空間、利用者同士の交流ができる様々なイベントの実施など、図書館の新たな価値を創造していく必要があります。

④ 情報チャンネルの多様化

図書館全体の課題として、情報チャンネルの多様化が考えられます。インターネットやスマートフォンの普及によって、日常の身近な問題や軽易な分析は本や資料に頼ることなく解決できるようになりました。インターネットによる情報収集は便利な一方で、利用機会や活用能力の個人間格差や、情報量の多さ、信頼性に欠ける情報の存在といった課題もあります。

参考 1： 名古屋市図書館第 1 ブロック市民アンケート結果

(問) 図書館を利用しない、利用しなくなった理由	平成 30 年度
インターネットで間に合っている、行く必要がない	20.7%

参考 2：文化庁 国語に関する世論調査結果

(問) 読書量が減っている理由	平成 20 年度	平成 30 年度
情報機器で時間が取られる	14.8%	36.5%

社会の情報化が進む中で、公共の図書館として、誰もが必要な知識や正確な情報を適切に入手できる環境整備や、情報モラルやマナーといった情報リテラシーの向上に努める必要があります。

また、利用者の情報へのアクセスと主体的な学びを保障し、情報収集や調査分析だけでなく、情報の活用や発信の場となるよう取り組む必要があります。

3 「なごやアクティブ・ライブラリー構想」で目指す姿 ～市民の生活に寄り添い、役立つ図書館を目指して～

現在では、市民の情報入手の方法が著しく変化し、様々な資料・情報を得ることができるようになりました。しかしながら、知識を得るだけでなく、その知識をもとに、自身で判断する力（人としてのチカラ）が求められる時代となり、その意思決定のためには幅広く情報や知識を入手すること、また、生涯にわたって学び続けること（生涯学習）が必要です。

図書館としては、これまでの図書・雑誌・新聞などの資料を収集・整理・保存・提供するという基本的な活動に加えて、新しい時代の流れに対応した取り組みが求められるようになりました。今後は、現在及び将来において必要となる多様な資料・情報の収集・保存に努めつつ、市民一人ひとりに本や情報が利用しやすい環境を整備するとともに、共通の興味・関心・課題を持つ市民同士がつながり、個人や地域の悩みをともに解決できるような「市民の生活に寄り添い、役立つ」図書館を目指します。

（１）目指す図書館像

平成 30 年度に第 1 ブロック内の市民約 3,000 人を対象にアンケート調査を実施しました。図書館の利用について尋ねた結果、月に 1 回以上図書館を利用した人は約 2 割程度であり、残りの約 8 割の人は、「本は買って読む」「図書館が近くにない」「本を読まない、読まなくなった」等の理由から、年に数回の利用、もしくは一回も利用していないことが分かりました。これらの理由を参考に、今後、名古屋市図書館として目指すべき方向性を、下表のように整理しました。

図書館を利用しない、しなくなった理由	名古屋市図書館として目指すべき方向性
「本は買って読む」 「インターネット等で間に合う」	本屋やネットでは出合えない良質な本や 貴重な資料などの情報提供と活用の支援
「本を読む時間がない」 「図書館が近くにない」 「図書館のある場所を知らない」	わざわざ図書館へ行かなくても身近な場所 で利用できる本の貸出返却サービスや電子 書籍の充実
「本を読まない、読まなくなった」 「読みたい本がない、古い、汚い」	よく利用される本を中心とした配架や、 手に取って読みたくなるような展示や紹介
「静かにしないといけない、 自由に話ができない」「建物が古い」	会話や飲食ができ、ゆったりと過ごすこと ができる、居心地のいい空間づくり

今後は、現在、図書館を利用していない方にも図書館を利用してみたいと思っていただくため、様々な市民ニーズに対応していく必要があります。

しかしながら、従来のように各図書館が均一にサービスを提供する方法では、今日的な市民ニーズの全てに、各館が応えることは困難です。そこで、次の表のように、各図書館の機能を分化し、組み合わせることにより、様々なニーズに答えていきます。

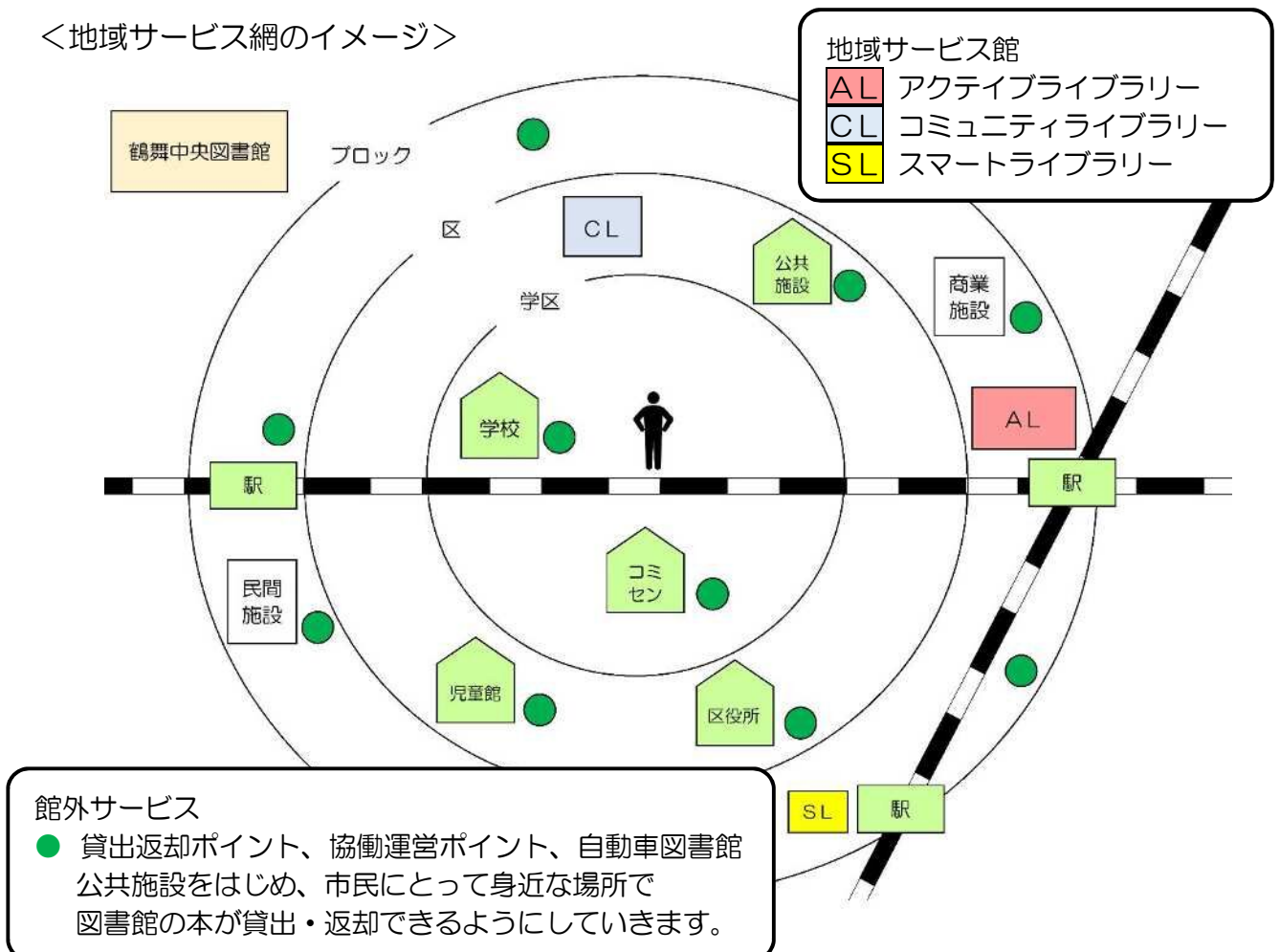
今日的な市民ニーズに応えるための機能分化	
・PCを持ち込んだり、集中して学習や研究をしたい方 ・本は買う、ネットで情報を得る方	高額でなかなか個人では買えない専門書や ⇒ 本屋では手に入りにくい良質な本・情報を 得られる図書館
・ゆったりと本を読みたい方 ・リラックス、リフレッシュしたい方 ・図書館が静かで窮屈に感じる方	会話や飲食ができ、ゆったりと過ごすこと ⇒ ができる居心地のいい図書館
・図書館に行く時間がない方 ・図書館が遠い方	⇒ 駅周辺など便利な場所の図書館

また、鶴舞中央図書館を中心に各ブロックがきめ細かなネットワークを形成し、本や情報と人を繋げるだけでなく、人と人とを結びつけ、市民の学ぶ意欲や学び合いを支えることで、地域の課題の解消や発展にも繋げていきます。

(2) 地域サービス網の形成と新たなサービス

誰もが気軽に利用しやすい利便性の高い環境を整えるため、ブロック内で地域サービス館・貸出返却ポイント・協働運営ポイント・自動車図書館によるネットワークを形成し、地域サービス網として図書館サービスを展開していきます。

＜地域サービス網のイメージ＞



地域サービス館は、構想で定めるとおり、3タイプに分かれてサービスを展開します。アクティブライブラリー（AL）は、市民や行政の課題解決に役立つ図書館です。専門職である司書を集約して、郷土資料はじめ多様な資料・情報の収集・活用や専門的な課題解決支援、学校との連携など専門的サービスの機能を強化します。コミュニティライブラリー（CL）は、ポピュラーな図書や雑誌を揃えた、気軽に来館でき、ゆったり滞在ができる身近な図書館、スマートライブラリー（SL）は、駅周辺など便利な場所で、本を選ぶことや、貸出・返却をすることができる図書館です。民間活力を活用し、効果的・効率的な図書館運営を図ります。

図書館が身近にない方のために、貸出返却ポイント・協働運営ポイント・自動車図書館によるサービスを展開します。駅、商業施設、学校、コミュニティセンター、福祉施設といった、市民にとって身近な場所で、本の貸出や返却を行うことにより、本が、血液のように巡回する、よりきめ細やかなネットワークを構築します。このネットワークサービスにより、市民が図書館へ来館することなく、様々な場所で本を受け取り返却できるようにします。

今後は、施設の整備に合わせて、ＩＣタグおよび自動貸出返却機を導入し、窓口のスタッフを介さなくても利用者が自ら貸出や返却ができるように検討していきます。

また、バリアフリーの観点から、電子書籍等を充実させ、図書館の所蔵する情報を時間や場所の制約を受けずに、活用できるようにしていきます。

地域サービス網の形成と新たなサービスにより、様々な場所で、幅広い知識や情報を得ることができるようにし、市民ひとりひとりの意思決定や生涯にわたる学びを支えます。また、図書館を含むブロック内の他の公共施設との協力や、各種団体等との連携により、市民サービスの向上につなげていきます。

（参考）図書館の運営形態 ～なごやアクティブ・ライブラリー構想より～

ア 中央館

豊富な郷土資料を備え、より高度な調査研究が可能な館として、全体を統括します。

イ 地域サービス館

地域サービス網を構成する図書館を、大きく3タイプに分けてサービスを展開します。

（ア）アクティブライブラリー

専門資料を揃え、市民や行政の課題解決に役立ちます。

（イ）コミュニティライブラリー

ポピュラーな図書や雑誌を揃えます。

気軽に来館でき、ゆったり滞在ができる身近な図書館です。

（ウ）スマートライブラリー

駅周辺など便利な場所で、本を選ぶことや、貸出・返却をすることができます。

(3) これからの図書館に求められるもの

図書館が地域における資料・情報の利用及び活用のインフラ・拠点となるためには、図書館や司書の持つ力をこれまで以上に向上させていく必要があります。

中央館及び地域サービス館アクティブライブラリーに、専門職である司書を集約し、課題解決の支援、学校との連携、多種多様な資料・情報の収集などの機能を強化していきます。知識や技能の蓄積と継承を確実にを行うため、司書の育成にあたっては、鶴舞中央館を中心に研究・研修体制を構築し、将来に渡って持続可能な図書館運営を目指していきます。地域における図書館サービスが高い水準で保たれるよう、研修や地域での活動を通じて日々研鑽に努め、司書としての専門性を高めていきます。

① 多種多様な資料・情報の収集、保存及び情報提供

本だけでなく、過去の写真や記録といった、地域の歴史が浮かび上がってくるような資料も含め幅広く収集します。必要な情報を的確、迅速に提供することで、市民の生活や行政の施策がさらに充実するように支援します。

取り組み の具体例	多種多様な情報の収集・活用・提供（専門資料の収集） 学校との連携（学校連携窓口、児童生徒の課題探求への支援） 市民や行政などの専門的な課題解決支援（レファレンス）  学習支援図書セット  レファレンスサービス
--------------	---

② 市民一人ひとりに利用しやすい環境の提供

図書館サービス網を再構築し、誰もが気軽に利用しやすい利便性の高い環境を整えるため、司書が館外でも積極的に活動します。

取り組み の具体例	館外での貸出返却や出張事業 （貸出返却ポイント、協働運営ポイント、自動車図書館）  自動車図書館  館外出張事業 （音読教室）
--------------	--

③ 市民とのパートナーシップによる図書館事業

地域社会で活動する市民と協働して事業に取り組みます。講座やボランティア活動におけるファシリテート（支援と促進）、市民ワークショップ等を通じ、市民と共に学び合い、成長を続ける活動を行っていきます。

取り組みの具体例	市民ボランティアとの協働 市民との協働による図書館機能の向上（ワークショップ等） 地域サービス館同士の連携（助言・支援）  ボランティアとの協働教室 （親子体験点字教室）  図書館同士の連携 （司書の専門研修）
-----------------	---

（参考）鶴舞中央図書館と地域サービス館の役割

鶴舞中央図書館を中心に各ブロックが連携し、ブロック内にて均一のサービスが行えるよう努めていきます。



鶴舞中央図書館は、各ブロックの統括をするアクティブライブラリー（AL）に対し、各分野の専門性の向上、市民との協働や関係団体との連携といった図書館運営上の技術的指導など、司書としてのスキルアップを目的とした研修を実施します。アクティブライブラリー（AL）は、図書館で活動する市民ボランティアの育成や、コミュニティライブラリー（CL）・スマートライブラリー（SL）への助言・支援を通じて、地域における市民の活動がより活発になるように取り組みます。

<地域サービス館の役割>

区 分	貸出返却 ポイント	協働運営 ポイント	自動車図書館 の運営	学校連携 ※2	レファレンス
AL※1 (ブロックに1つ)	○	○	○	◎	○
CL、SL	○	—	—	○	○

※1 AL に市職員の司書を集約化し、ブロック内において、専門的なレファレンスをはじめ、様々なサービスを実施します。

※2 AL に学校連携窓口を設置し、学校図書館の活動を支援するとともに、CL、SL においても、学校と連携した活動を行います。

4 各サービスの方針と特徴

(1) アクティブライブラリー

方針1	本や情報を通して人々が出会い、アクティブに活動することができる図書館 ●市民や司書が本をお勧めし合い、出会う場の提供 ●目的に応じて活動できるスペースや、多様な学びの場を創造
方針2	地域のシンクタンクとしての図書館 ●市民に寄り添い、課題を解決するための専門的な資料を収集・提供 ●豊富な資料により市民の情報へのアクセスを保障
方針3	ネットワークとアウトリーチの拠点となる図書館 ●地域における課題やニーズを拾い上げ、協働して解決できるよう、市民と司書がアクティブに活動 ●ブロック内を統括（地域サービス網の継続的・安定的な運営）
特徴	●深い学びに資する専門書を含め、幅広く配架します。 ●専門職である司書を集約し、質の高い情報の収集と発信、レファレンスサービスを提供し、市民の悩みや課題解決を支援します。 ●市民が学ぶだけでなく、実際に活動できる場を設けます。 ●ブロック内の各館支援、学校連携窓口や選書、ボランティアの育成を行います。 ●各館ごとに自動車図書館や協働運営ポイントを運営します。
面積	2,000 m ² 程度
参考	名古屋市図書館の事例 ●市民との協働事業（中川図書館） ① 介護保険に関わる専門家によるワークショップを開催 ② 司書の視点だけでなく、専門家と共に選んだ関連本リストの作成 ③ 認知症カフェ等の区内各所での関連本リストの配布 ④ 図書館におけるテーマ展示と関連講座の実施 他都市の事例 ●仕事や暮らしを助ける課題解決型図書館（北海道札幌市図書・情報館） より多くの図書館利用者へ効果的な情報提供を行うため、図書の館外貸出を行っていません。 また、ニーズ調査に基づく選書、「日本十進分類法」によらない配架や司書による企画展示がなされています。  他都市の事例 ●誰もが生きいきとした表情に満ちた場所（岐阜県岐阜市立中央図書館ぎふメディアコスモス） 「ここにいることが気持ちいい」「ずっとここにいたくなる」「何度でもここに来てみたくなる」を合言葉にした、あらゆる世代が集う居心地のいい滞在型図書館として、多くの人々が訪れています。また、図書館のほか、市民活動交流センター、多文化交流プラザ等からなる複合文化施設として、まちづくり活動をしている方々はもちろん、人と人、人と情報の「交流空間」として利用されています。

(2) コミュニティライブラリー

方針1	みんなが快適に過ごすことができる図書館 ● ゆったりと読書を楽しむことができる空間 ● ボランティアの活動や親子での利用など、ニーズに合わせたエリア
方針2	本や情報との出会いや、新たな学びの楽しさを伝える図書館 ● 利用者のニーズに応えたポピュラーな資料を提供 ● 民間ならではのアイデアを盛り込んだ取組みを実施
特徴	● よく利用される小説、実用書、児童書等を中心に配架します。 ● 閲覧スペースは書架の高さを低くするなど、ゆったりとさせます。 ● 複合施設に設置等する場合は、共用部分や学習スペース・活動交流スペースの一部を図書館外に設定することを検討します。
面積	700 m ² 程度
参考	名古屋市図書館の事例 ● 合築施設との共用（徳重図書館） 合築施設である地区会館を活用し、講座やイベント等、さまざまな行事を行っています。 他都市の事例 ● 読書と憩いの場、図書館内のカフェショップ（宮崎県都城市立図書館） 図書館とカフェが併設されており、メインエントランス横のカフェショップでは、レストラン、カフェの運営のほか、地元の店舗と協力し合い、雑貨の販売等を行っています。 

(3) スマートライブラリー

方針1	利便性の高い効率的な図書館 ● 駅周辺等の利便性の高い立地による短時間での利用 ● 予約本の受取から返却までセルフで行えるスムーズな貸出返却
方針2	ニーズの変化に即応できる図書館 ● 新鮮度を重視した選りすぐりの資料を提供 ● 開館時間のフレキシブルな設定や探しやすい手に取ってみたいくなる館内展示
特徴	● 受入5年以内の比較的新しい蔵書を中心に、ニーズに合わせて配架します。 ● 一定規模の書架と閲覧・貸出機能を持ちます。 ● 複合施設内への設置を原則としており、学習室などの必要なスペースを、施設内に確保することを検討します。 ● 小回りの利く展示替えで利用者のニーズの変化に対応します。
面積	300 m ² 程度
参考	他都市の事例 ● 駅前立地を生かした蔵書と運営（神奈川県大和市立中央林間図書館） 駅至近の商業施設内に立地しており、学生や通勤途中の利用が多いという特性に配慮した蔵書構成とし、夜遅くまで運営しているほか、特徴的な書架をレイアウトし、来館者の興味を引く展示を行っています。 

(参考) 従来の区分館と各地域サービス館の目指す姿との比較

	従来の区分館	アクティブライブラリー
蔵書数	約 10 万冊	約 15 万冊 ※
蔵書内容	全分野、幅広く収集	幅広く収集 (課題解決のための専門資料を含む)
運営	直営	直営
性質・ねらい	均一性	専門性、深い学び
メイン ターゲット	区民 実際の利用者は、 常連・近隣住民が多い	・課題解決のため、専門的な調査をしたい人 ・新刊、話題の本を手にとってみたい人 【ほんシェル樹(一定の期間、貸出をしない本棚)】 ・図書館ならではの本との出会いを求める人【ミツカル本棚】 ・本を通して交流がしたい人 【ツナガル本棚】 ・自分の持つ知識を交換しあい、持続的に学びたい人【トモニマナブ広場】
閲覧スペース	余裕があまりない	ゆったりした空間(一部予約制)
集会室 等	あり(一部の館はなし)	あり(目的別)
実施事業	均一的なサービス	・直営司書による企画事業 ・自動車図書館による出張 ・協働運営ポイントの運営 ・学校連携

※蔵書について、今後は、紙の本に加えて、電子書籍の充実を図っていきます。

＜コロナ禍を踏まえて、今後検討するサービス等＞

図書館へ来館することなく、自宅で図書サービスを利用したい人

⇒

貸出・返却手続時の接触を減らし、感染リスクを軽減したい人

⇒

図書館内の本や資料を清潔に気持ちよく利用したい人

⇒

図書館へ不安なく来館して、安心して利用したい人

⇒

コミュニティライブラリー	スマートライブラリー
約5～7万冊 ※	約1～4万冊 ※
よく利用される本が中心	新しい本が中心（受入5年以内）
民間活力の活用	民間活力の活用
快適性、読書や学びの楽しみ	利便性、気軽な利用
・家族みんなでゆったり読書を楽しみたい人 ・おしゃべりしながら読書を楽しみたい人 ・図書館ならではの本との出会いを求める人【ミツカル本棚】 ・魅力的なイベントを楽しみたい人 ・図書館で気軽に学びたい人（講座・セミナー）	・本を手にとって選び、貸出や返却を気軽にしたい人 ・複合先の施設も合わせて利用したい人 ・通勤や通学の途中に立ち寄りたい人 ・ニーズに合った選りすぐりの本を楽しみたい人
ゆったりした空間	一定規模（共用部分も活用）
あり（一部は共用部分）	なし（共用部分を活用）
・民間活力を活用した事業 例：開館日数・時間の延長 体験型のイベント 複合施設での連携事業	・民間活力を活用した事業 例：開館日数・時間の延長 体験型のイベント 複合施設での連携事業

【宅配サービス、インターネットサービス（オンラインでのレファレンス等）】

【セルフ貸出返却や貸出ボックスの設置】

【消毒等の徹底、図書除菌機の導入】

【安全面に配慮した施設（ゆとりある空間、換気の徹底）】

(4) 貸出・返却ポイント

方針	場所やニーズに応じた貸出・返却 ●予約本の受取や返却が可能なポイントを身近な公共施設や商業施設など利用しやすい場所へ設置														
特徴	●学校において、児童・生徒に対して貸出・返却を実施します。 ●駅や商業施設等の利用しやすい場所へ返却ポストを設置します。														
参考	<u>名古屋市図書館の事例</u> ●学校における貸出・返却（中川区篠原小学校） 学校司書と協力し、令和3年1月から、学校における図書館の本の貸出返却サービスの試行を行っています。 名古屋市図書館の司書が選ぶ児童向けの本や児童が自らリクエストした名古屋市図書館の本を、学校で受け取ることができます。  ●駅・商業施設等の返却ポスト 買い物や通勤通学などのついでに返却ができるように、返却ポストを市内6ヶ所に設置しています。 <table border="1" data-bbox="331 1209 1412 1554"> <thead> <tr> <th>設置場所</th><th>担当館</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>イオン守山店</td><td>志段味図書館（指定管理者）</td></tr> <tr> <td>志段味支所</td><td>志段味図書館（指定管理者）</td></tr> <tr> <td>イオンモール大高店</td><td>緑図書館（指定管理者）</td></tr> <tr> <td>地下鉄中村公園駅</td><td>中村図書館（指定管理者）</td></tr> <tr> <td>ららぽーと名古屋みなとアクルス</td><td>港図書館</td></tr> <tr> <td>緑区役所</td><td>緑図書館（指定管理者）</td></tr> </tbody> </table> <u>他都市の事例</u> ●学校図書館支援サービス（愛知県安城市図書館情報館） 朝の読書用の図書、調べ学習用の図書及び、希望する図書資料について、学校への定期配送を行っており、児童生徒は、学校に居ながら公共図書館の資料が利用できます。 	設置場所	担当館	イオン守山店	志段味図書館（指定管理者）	志段味支所	志段味図書館（指定管理者）	イオンモール大高店	緑図書館（指定管理者）	地下鉄中村公園駅	中村図書館（指定管理者）	ららぽーと名古屋みなとアクルス	港図書館	緑区役所	緑図書館（指定管理者）
設置場所	担当館														
イオン守山店	志段味図書館（指定管理者）														
志段味支所	志段味図書館（指定管理者）														
イオンモール大高店	緑図書館（指定管理者）														
地下鉄中村公園駅	中村図書館（指定管理者）														
ららぽーと名古屋みなとアクルス	港図書館														
緑区役所	緑図書館（指定管理者）														

(5) 協働運営ポイント

方針	地域のための地域による小さな図書館 ●本をきっかけに交流する地域コミュニティの形成
特徴	●公共施設や商業施設の管理者の協力を得て、市民に身近な場所で、本の貸出や読書イベントを実施します。（場所は施設管理者が、本は図書館が、運営は施設管理者と図書館が協力して実施します。） ●本を通じて、人が集まり交流が始まるよう、身近な場所での展開を目指します。
参考	<u>名古屋市図書館の事例</u> ●ここにもライブラリー 地域と名古屋市図書館が協力し合い、人と本が出会う場所を創るための取り組みとして、以下の3ヶ所に「ここにもライブラリー」を設置し、本の貸出、イベント等を実施しています。 ・中川児童館 ・星が丘テラス ・柴田商店街 

(6) 自動車図書館

方針	機動性が高い小型車両でどこへでも出張 ●コミュニティセンターや福祉施設など、ニーズに応じてさまざまな場所に本を載せて出張
特徴	●本が読みたくなる車両で多くの方に読書の楽しさを伝えます。 また、予約本の貸出も行います。 ●小型車両により、機動性を向上させ、直営館である中央図書館、アクティブライブラリーから運行を行い、巡回周期の短縮を目指します。 ●巡回を希望するコミュニティセンターや福祉施設へ出張も行います。 ●小型車両の特性を生かして本の運搬を行うほか、ブロック内どこへでも出張します。
参考	<u>他都市の事例</u> ●小型車両による巡回等（長崎県五島市移動図書館） 移動図書館ドリームつばき号（小型車両）は、周辺地区の小中学校、幼稚園・保育園、福祉施設などを中心に定期的な巡回サービスを行っています。 

※ 小型車両の導入にあたっては、現行の運行委託経費や車両更新費等を超えないようにします。

5 地域サービス館の整備方針

第1ブロックのアクティブライブラリーは、交通の便がよく、にぎわいのある商業施設があるなど、多くの利用者が見込まれる星ヶ丘に整備します。

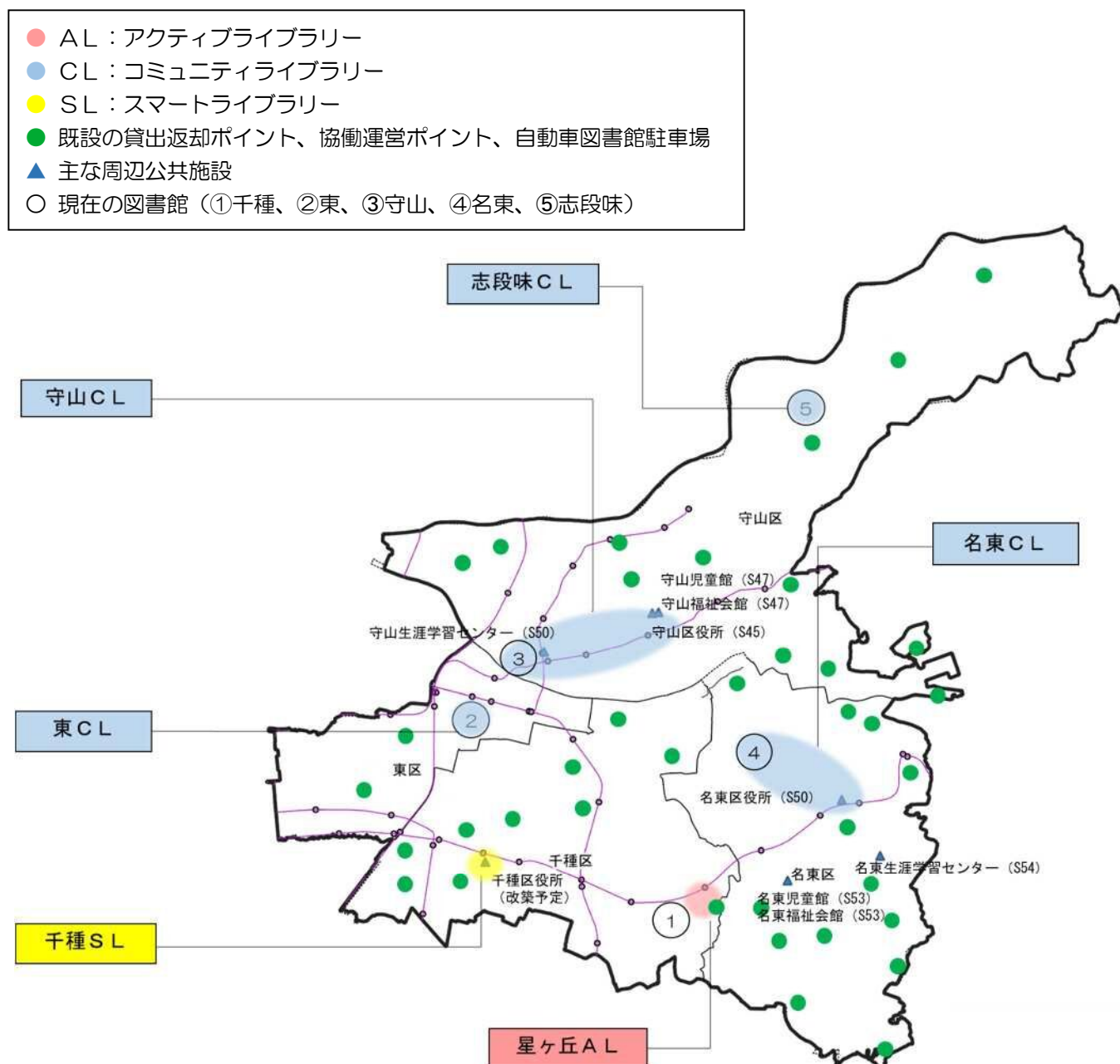
その上で、ブロック内の各館や他の公共施設の状況を踏まえて、コミュニティライブラリー、スマートライブラリーの整備を進めます。施設の老朽化が進んでいる図書館について、改築を行う場合には、複合化を原則として整備します。

また、比較的新しい図書館は、当面現状のまま運営し、今後、老朽化した際のリニューアル改修等に合わせて整備します。各地域サービス館の整備に関する基本的な考え方を以下に示します。

区 分	基本的な考え方	第1ブロックの整備方針
アクティブライブラリー	●各ブロックに一つ整備します。 ●利用が多く見込める場所へ整備します。 例：にぎわいのある商業施設、大学や高等学校が集まる地域、交通の便がよい駅の周辺 ●面積は2,000㎡程度とし、単館としての整備だけでなく、複合化による整備や民間施設へのテナント入居など、様々な手法を検討し、最適な手法で整備します。	●星ヶ丘駅周辺に新たに整備
コミュニティライブラリー	●複合化による整備の場合は、図書館と相性の良い施設とし、諸室の相互利用による合理化を目指します。 ●民間施設へのテナント入居の場合は、学習室や集会室等の機能を共用し、保有資産としないことを目指します。（他施設との連携を積極的に図り、単なる合築施設ではなく、機能の融合を目指します。） ●現施設のリニューアル改修等の場合は、民間活力による既存施設を活用したリノベーションにより、施設の有効活用を図ります。 ●面積は、700㎡程度（＋共用部分）とします。	●東図書館の今後のリニューアル改修等に合わせて整備 ●守山図書館及び名東図書館について、周辺の立地特性や区内公共施設の再編状況を勘案しつつ整備 ●志段味図書館の今後のリニューアル改修等にに合わせて整備
スマートライブラリー	●交通の便がよい場所に整備します。 ●集会室等は原則設置しませんが、複合化による整備や民間施設へのテナント入居の場合は、学習室や集会室等の機能を共用することを検討します。 ●現施設のリニューアル改修等の場合は、民間活力による既存施設を活用したリノベーションにより、施設の有効活用を図ります。 ●面積は、300㎡程度（＋共用部分）とします。	●千種区役所等複合庁舎内に整備

※ 地域サービス館への移行については、現行の図書館の規模や立地等をもとに検討し、図書館全体の床面積を増加させないようにします。運営面などを工夫することにより、これまで以上のサービスの提供を目指します。

第1ブロックの施設配置図



貸出返却ポイント、協働運営ポイント、自動車図書館駐車場は、ブロック運用とあわせて、順次充実させていきます。なお、施設の整備については、既存施設の改修等の時期を捉えて実施することから、今後の市民ニーズや人口動態など社会状況の変化を踏まえ、必要に応じて見直しを行うとともに、具体的な施設整備を進めていく場面においては、事前に地域の意見を聞くなどして、市民から愛される施設を目指します。